

## 船舶事故調査報告書

平成31年2月20日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突（防波堤）
発生日時	平成30年4月21日 11時17分ごろ
発生場所	三重県四日市港東防波堤 四日市港東防波堤南灯台から真方位357°640m付近 （概位 北緯34°57.4′ 東経136°39.5′）
事故の概要	液化ガスばら積船第103菱化丸は、補油作業中、防波堤に衝突した。
事故調査の経過	平成30年4月25日、主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	液化ガスばら積船、第103菱化丸、997トン
船舶番号、船舶所有者等	136746、三菱ケミカル物流株式会社
乗組員等に関する情報	船長、三級（航海）
負傷者	なし
損傷	本船 左舷船尾部外板に凹損及び擦過傷 岸壁 コンクリート部に欠損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：海上 平穏
事故の経過	<p>本船は、船長ほか9人が乗り組み、平成30年4月21日10時35分ごろ四日市港東防波堤西側の錨地（水深約7m、底質泥）において、主機を運転して可変ピッチプロペラ（以下「CPP」という。）の翼角を中立とし、錨鎖3節を伸出して錨泊し、10時50分ごろ横付けした給油船からの補油作業を開始した。</p> <p>船長は、船位及び周囲の状況を確認した後、船橋を無人として降橋し、甲板で補油作業の支援を行っていたところ、本船が後進していることに気づき、昇橋して前進の操作を試みたが間に合わず、11時17分ごろ左舷船尾部が東防波堤に衝突した。</p> <p>本船のCPP装置は、油圧ラインのストレナーナが破損し、その破片が電磁弁に噛み込み、翼角を制御する油圧の作動油が後進用ラインに流れた結果、翼角が中立状態から後進に変わっていたことが本事故後に判明した。</p>
分析	<p>本船は、東防波堤西方海域において、錨泊して補油作業中、船長が、主機を運転してCPP翼角を中立とした状態で降橋し、船橋を無人として甲板で作業を行っていたことから、CPP装置の油圧ラインに不具合を生じて後進となった際、東防波堤に接近していることに気付くのが遅れ、同防波堤に衝突したものと考えられる。</p>
原因	本事故は、本船が、東防波堤西方海域において、錨泊して補油作業

	<p>中、船長が、主機を運転してCPP翼角を中立とした状態で降橋し、船橋を無人として甲板で作業を行っていたため、CPP装置の油圧ラインに不具合を生じて後進となった際、東防波堤に接近していることに気付くのが遅れ、同防波堤に衝突したものと考えられる。</p>
<b>再発防止策</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 主機を運転した状態で作業等を行う場合、不測の事態が生じた際に対応できるよう船橋当直を配置すること。</li></ul>